

令和6年度 県立北茨城特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像		◆児童生徒・教職員が笑顔あふれ、安心安全に学べる学校 ◆児童生徒一人一人が自己存在感を実感し、楽しく学び合える学校 ◆保護者・地域から信頼され、地域の特別支援教育の発展に貢献できる学校◆				
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標		達成状況	
<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒による授業評価結果では、98%の児童生徒がA（よく分かる）・B（大体よく分かる）と回答している。今後は、単元計画を学習内容に沿って作成し、さらに各単元終了後に授業評価を実施していくことで、より主体的な学びを実現していく。 「あいさつ」「清掃」とおとしたペア学習が浸透し、学び合いができた。さらに異年齢活動の充実を図り、自己存在感の醸成を目指していく。 地震・津波による避難訓練では、新経路で実施したが、さらに安全な経路を確認し、複数ルートによる避難訓練を実施する必要がある。 コミュニティ・スクール準備校として、「芸術」をコンセプトに地域の芸術家と、製作活動等で交流ができた。今年度は、芸術家等と共に地域の活動や、学習活動に参画していくことで、児童生徒の活躍の場を広げ、相互理解に役立てたい。 	1 豊かな学び	①各教科等の見方考え方を踏まえた単元計画による授業実践 ②学びの成果の発信やアウトプット、振り返りのツールとしてのICT活用 ③「あいさつ」「清掃」及び職場体験・現場実習の学校全体・系統的取り組み				
	2 安心・安全	④安心・安全な教育環境づくり（自己存在感を実感できる活躍の場の設定） ⑤外部機関・PTA等と連携した家庭支援の推進 ⑥医療との連携による安全な医療的ケア ⑦地震・津波を想定した地域住民との避難訓練・新経路での避難訓練の実践と検証				
	3 地域の中の学校	⑧コミュニティ・スクールの導入による地域人財との協働的な学びの実現 ⑨ICT活用による効率的な実施計画の作成と「合理的配慮個人シート」の活用による相互理解の促進 ⑩児童生徒の作品等とおとした間接交流の場の拡充 ⑪各部門・PTA、地域交流を重視した「きたとく祭」・「みんなでマルシェ・イン北茨城」の実施				
	4 総合支援	⑫「みんなで地域支援」をコンセプトにした学校全体による支援体制 ⑬専門家を交えた支援方法の検討等教職員のスキルアップにつながる校内支援 ⑭「みんなで地域支援」をコンセプトにした校種を超えた学び合いや研修の実施				
	5 専門性向上と働きやすさ	⑮「学び続ける教師」を目指した外部講師による研修会（個別最適化とICT、自立活動等）の充実 ⑯教職員の相互研修（自立活動・接遇等）の実施 ⑰タイムマネジメント（効率的な会議、時間外勤務削減）意識の向上による働き方改革の実現				
評価項目	具体的目標	具体的方策		重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営管理教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒による授業評価A（よく分かる）B（大体分かる）90% 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導提要における、生徒指導の実践上の視点の一つとして、「自己存在感の感受」が示されていることを説明し、学級に居場所があること、自分が受け入れられている実感が必要なことを共有し、安心の上に学ぶ意欲が生まれることを職員会議で説明し、学ぶ楽しさがある「主体的・対話的で深い学び」の授業づくり及び改善を実践する。 		①②③④ ⑤⑥⑦		

	<ul style="list-style-type: none"> ・新経路での地震・津波避難訓練1回、地域住民の参画による見直し改善2回 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の避難経路からさらに浸水区域を極力通らない新経路に変更し、できるだけ早く高台へ避難する。6月に地域の方を交えた避難訓練を実施し、意見を取り入れた上で実践・検証を繰り返す。 			
教職員の育成及び指導・監督	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員のアンケート、校務分掌部長等の意見を取り入れたグランドデザインの努力事項の実施100% ・若手及び異動1年目の教員面談2回実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の自己存在感醸成を図り、主体的に学校経営に関わる土台づくりとして、組む分掌部長等に積極的に意見を聞き、チームとして参画してもらう。4月に教職員アンケートを実施し、本校の「良さ」「改善点」目指す学校像を聞き取り、今年度のグランドデザインに組み入れる。2月に再度面談し、実施結果の評価を共有し、次年度に生かす。 ・教職員の精神疾患による病気休職者の傾向を考慮し、採用間もない教員と今年度異動してきた教員との面談を年2回実施し、孤立しない支援を実施していく。(6月・8月・12月) 	①③④⑫ ⑮⑯		
対外活動	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールにおける地域との協働各部1回以上 ・セラピストや外部講師による学び合いの場の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールを「学校づくり、まちづくり」と捉え、全ての人々が暮らしやすい「共生社会の実現」に向けて推進していく。北茨城市の「芸術によるまちづくり」との協働で、地域の人財との協働による授業参画を各部実施していく。 ・セラピスト等外部専門家による見立てを学び、専門性の向上につなげる。また、保護者への情報共有を積極的に実施し、共に学び合う機会を設定する。 	⑧⑨⑩⑪ ⑭		
コンプライアンス確保	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス推進計画内で「自分事」研修 年2回 ・不祥事0名 	<ul style="list-style-type: none"> ・「不祥事を起こさない」だけではなく、不祥事を起こしてしまったら、何が起るのかを検証し、自分一人では影響がすまないことを想像する機会を職員会議、コンプライアンス研修、日常生活レベルで繰り返し伝えていく。 ・あいさつ+αで積極的に教職員にプラスの言葉かけを伝え、笑顔とゆとりある職場環境を醸成する。 	④⑤⑫⑮ ⑯⑰		
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の終了時刻明示による全会議時間50分以内 ②マイ定時退勤日取得者50%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての会議において、50分を超える会議を設定しないことを職員会議で共有する。クラスルーム等、情報共有のツールを有効活用し、業務全体の効率化を図る。 ・定時退勤しやすい環境設定にするために、マイ定時退勤日設定キャンペーン等を実施し、誰もが帰りやすい環境を整える。 	⑧⑮⑯⑰		
ICT活用	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを可視化することで、学習意欲向上90% ・コミュニケーションツールとしての活用各部1例以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の学ぶ楽しさを実感するために、「なぜ」「できた」「わかった」を他の児童生徒と共有するツールとしての活用について考え、自分の考えを整理したり、アウトプットしたりできるようにする。授業での効果的な活用について、各部で実践・検証する。 ・自分なりの方法で、自己実現できるツールとしてのICT活用事例を共有し、児童生徒の活用の幅を広げていく。 	①②④⑨		

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない